

武雄市図書館に行きました（I）

私たちはメンバー16名で、武雄市図書館の視察に行ってきました。

以下に、武雄市図書館を見学した方の感想を掲載します。

I. 全体の印象

- 玄関に入るやいなや、売り物やレンタルがキラキラ輝き、裏や奥に行かないと本来の図書館の本が見えなかった。
- 天窓の飾りが目を引く明るい館内に、スタバのコーヒーの香りと TSUTAYA の販売コーナーが来館者を迎える。代官山の蔦屋書店のスタイリッシュな雰囲気を持ちこんだ図書館である。
- 「何？これって本屋さん？図書館の本何処？ライブラリアン何処にいるの？」と思った。
- 木目調の自動貸出機で本を何冊も重ねて貸出しできることやスタイリッシュな自動検索機で立ちながら検索できること、そして、トイレがホテル並みできれいだった。
- 思っていた以上に TSUTAYA に乗っ取られた・・・という印象だった。
私は、次の理由で、子どものころから図書館が好きだったが、武雄市図書館にはそのすべてが失われていた。
 - 「（貸出禁止を除き）この中にある本は、家に持って帰ってゆっくり読めるんだ！」と、図書館に足を踏み入れたとたん、とても幸せな気持ちになること。
 - お金を使うことまた、お金を使いたいと全く思うことなく、安心して過ごせること。
 - 普段着のまま、子どもを連れていても、体調が多少悪くても、静かにさえしていれば、誰にも気兼ねなく、安心して自由に本を楽しめること。
- 書物離れに、少しは歯止めがかかるのでは？と期待できる空間であった。建物中の書物の配置、書店ならではのディスプレイ、スタイリッシュな内装など魅力的だった。
- 今までの図書館という概念では理解できないが、図書館と書店が融合された新しい提案ではないか？
- 売り物がどこまでで、借りるのはどこからなのか「柱の色で区別している」といわれたが、子どもたちは（大人でも）なかなかわかりにくいだろうと心配になった。（同意見多数）
- 広いスペースがとられた雑誌コーナーでは、流行のライフスタイルを押し付けられるような気がして、公共施設がすることなのか・・・？と気になった。
- 「ひさしを貸して母屋を取られる」ということばが、チラッと頭をよぎった。
- コーヒーの匂いやパンの匂いがして、それを食べながら飲みながらおしゃべりしている人たちがうるさかった。（平日の午前中だったので、思ったより静かだったとの意見もあった。）
- 「図書館」という名称はありながら、販売している本のディスプレイが強調されていて、図書館の本棚の魅力がなかったように感じた。
- 緑の景色が見える場所に絵本が並べられ、図書館の本が見え、外から本が借りたくなる場所に書架が並べられ、コーヒーショップや書店の本は、奥でも構わないと思った。
- 検索機の文字が小さくて、老眼鏡がいるのが不便だった。
- 「武雄市図書館」というよりは、「代官山蔦屋書店附属図書館」という感じで、税金を使わずに TSUTAYA が独自で図書館を作れば良かったのと思った。

(同じように、市に中央図書館が一つちゃんとあって、二つ目なら我慢もできるとの意見もあった。

- 「代官山蔦屋書店」と同じく、客？利用者のターゲット（20、30、40、50代）を絞っていると感じた。（同意見多数）税金で建てた市民みんなの図書館なのに・・・
- 地域振興を勧めている市長なのに、何で地元のお店ではなくて、スターバックスコーヒーなの？と思った。

II. 図書館の部分

- 通路の狭さ、一部の書架が高すぎることなど、特に子育て中の人、高齢者、障がいのある人にとっては、危険も伴うほど使いづらいだろう・・・と気の毒にさえ思った。（同意見多数）
- 閉架図書をなくすことにより、20万冊の本の量が迫ってくるのに、ゾクゾクする快感を覚える、スタイリッシュな感じ、本を手にとってみると居心地のよい空間だった。
- 読みたい本、書棚から出したり引っ込めたり、好きな本に出会うまでの時間が大切だと思うが、とてもとても高い棚に並べられているため、小学校の子どもが手にしたい本、高齢者が手にしたい本、車椅子の方が手にしたい本、幼児が手にしたい大型絵本、みんなみんな、自分で勝手に乗ってはいけない“脚立”が要るのはおかしいと思った。かつ、取ってくれる図書館員の数が少なく、探して呼んでくるのも、子ども連れの人、子どもたち、高齢者、障がい者には大変では？・・・（同意見多数）
- 児童書のコーナーが狭く感じた。読み聞かせのスペースも狭かった。
児童カウンターもスタッフ不在で、何か聞きたい事があったらどこに行けば良いか、案内のメモが欲しい気がする。児童コーナーの近くにトイレもなく、大丈夫かな？と心配。子ども連れの利用者には、やさしい図書館とはいえない印象だった。（同意見多数）
- 2階のてすりが低く、隙間が広いので子どもたちには危ない、高い書架が並び迷路のようになっているため死角が多く、また、図書館員も少ないため、不審者が侵入した場合、非常に不安である。小学校低学年が安心して一人でいける図書館ではないなど、危機管理について問題があるのでは？（同意見多数）

III. その他の意見

- デジタル化の時代、書物の重要性、そして図書館に関心のなかった人たちへのアプローチになるのでは？と期待する。
- この図書館が全国的に注目を集め、あちこちからの視察が続いている状態をみると、今後、こんなタイプの図書館が増えていく気がする。モデルケースとしていろんな問題をクリアしながら、より良い形で、市民に愛される図書館になってほしいと思う。
- 館長の図書館や本、子どもたちへの思いはよく伝わった。その思いに期待している。
- 平成・・・年に、私たち〇〇市立図書館が現在の形で建設された事は、日頃、当たり前だと思っていたが、「〇〇市立図書館の良さを再確認」でき、感謝の気持ちを抱かせてくれた。（同意見多数）
- 経済優先の経営母体の書店と、市民に生きる力を与え、思想信条を守る図書館とは、初めから相依れない場所に立っているのでは？理念の上からも、設計の段階からも。
- 物珍しさで来ている人がいなくなった時、どうなっているのか、2、3年後に来てみたい。（ず～っと観察していきたいという意見もあった。）
- 日頃、図書館に来ていなかった人たち、TSUTAYAにレンタルビデオや雑誌を買いに来た人たち、スタバにコーヒーを飲みに来た人たちを、どうやって図書館の部分に呼び込むか、継続的に図書館を利用

させるのか、簡単にはいかないと思う。(来館者の増加率に比べて、本の貸出し率は、上がっていない)

- 代官山蔦屋書店ではコンシェルジュと呼んでもいいが、図書館ではやはり「司書」ではないのか？(同意見多数)
- マスコミの報道ではわからなかった危機管理の問題など、実際に見学してみてわかったことが多かった。
- Tポイントの導入が、一部の企業への利益供与にならないか、よく検討して欲しい。
- おしゃれでスタイリッシュな図書館は、これから迎える高齢化社会、障がい者に優しい社会、少子化対策の子育て支援、また、東日本大震災後、想定外の危機管理が問題になっている現在、社会の流れに逆行するものであると感じた。

確かにいろいろな図書館があって良いと思います。しかし、「民主主義の砦」としての公立図書館の役割・・・すべての住民、赤ちゃんからお年寄りまでの知る権利を保障し、生活を豊かにするのが図書館ではないでしょうか？マスコミに流されることなく、自分の目で見、自分の頭で考えたいものです。

(文責 ○○・○○)